

泌尿器科

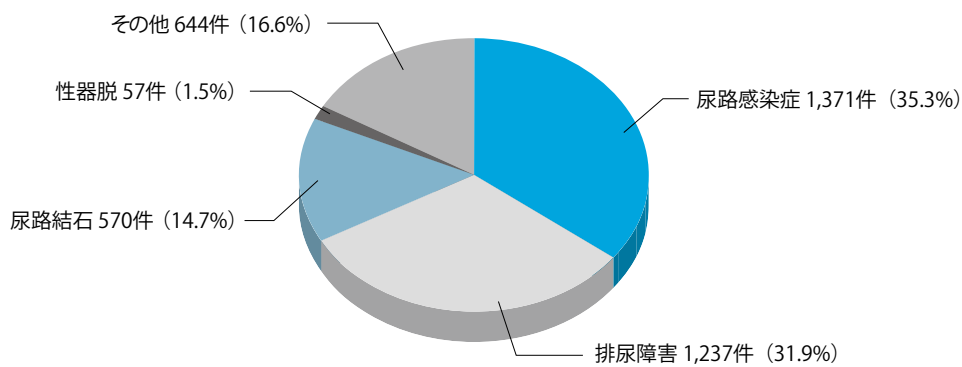
1. 概要

本年になり長井部長、田中、荒木両副部長、寺島、山本、石塚医師に新たに内藤医師が後期研修医として加わった。山本医師は7月から泌尿器癌に関する専門的研修目的で異動したため人員は6人のままであった。東三河地区における当院への一極集中の傾向はより強くなり、繁忙の程度は増すばかりである。その中で、当科の柱である泌尿器悪性腫瘍に対する小切開手術は長井部長、両副部長が中心となり質、量ともに全国のトップクラスを維持し、さらなる発展が期待されている。加えて新たにda Vinci Siによるロボット支援前立腺全摘術を開始し、多くのスタッフの協力により軌道に乗せることができた。また、荒木副部長の奮闘により当科の大きな柱となってきた女性骨盤外科領域の手術件数は増加の一途をたどり、当科の弱点であった尿路結石治療において、新たに導入したfTUL手術も順調に症例を重ね、より充実した泌尿器科医療を当地域で提供する体制は整いつつあると感じている。

(第一部長 長井 辰哉)

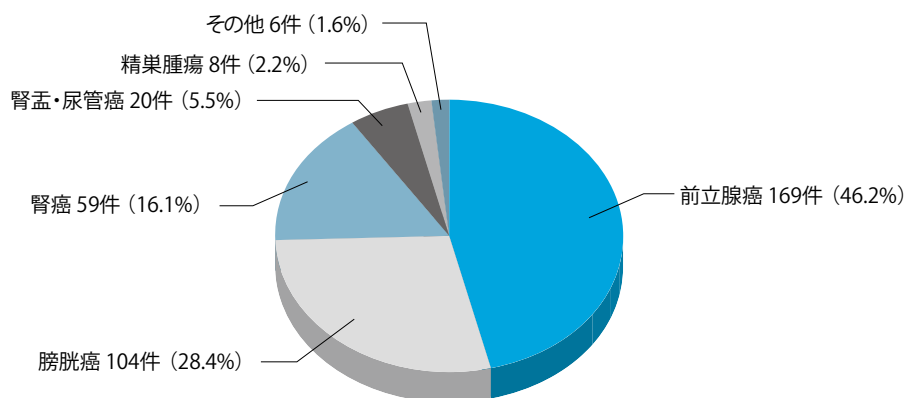
●疾患別頻度（悪性新生物を除く）

総件数：3,879件



●疾患別頻度（悪性新生物のみ）

総件数：366件



da Vinci Si使用状況

2013.10.1～ 2013.12.31..... 9件

学会発表（医局）

<泌尿器科>

※丸数字は共同研究者を示す

No.	演 題 名	発表者及び 共同研究者	学会・研究会名	発表年月日
1	ミニマム創内視鏡手術による前立腺摘出術の最前線ーミニマム創内視鏡手術の歴史、意義などー	長井辰哉	第26回日本小切開・鏡視外科学会	2013/11/1
2	泌尿器科手術の未来像(理想的な泌尿器科手術を目指して)	長井辰哉	第27回日本泌尿器内視鏡学会総会	2013/11/7
③	臍創から行う腎部分切除術	長井辰哉	第6回日本ミニマム創泌尿器内視鏡外科学会学術集会	2013/12/22